

Title	総合研究所 10 年の歩み
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所紀要, No.15, 1999.3 : (7)-(48)
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3443
Rights	

SERVE

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

聖学院大学総合研究所10年の歩み

(1988年～1998年)

- I 総合研究所の設置理念と組織
- II 研究活動
- III ランゲージ・インスティテュート
- IV 聖学院大学出版会
- V 自治体リーダー養成講座

*この10年の歩みをまとめるにあたって、聖学院大学政治経済学部元教授、故酒井文夫氏の作成して下さった「研究記録」を参考にした。

*各講演者の所属・肩書は発表時のものである。研究プロジェクトの研究員の所属・肩書も、ことわり書きのないものは、それぞれの時点のものとしている。

I 総合研究所の設置理念と組織

設置理念

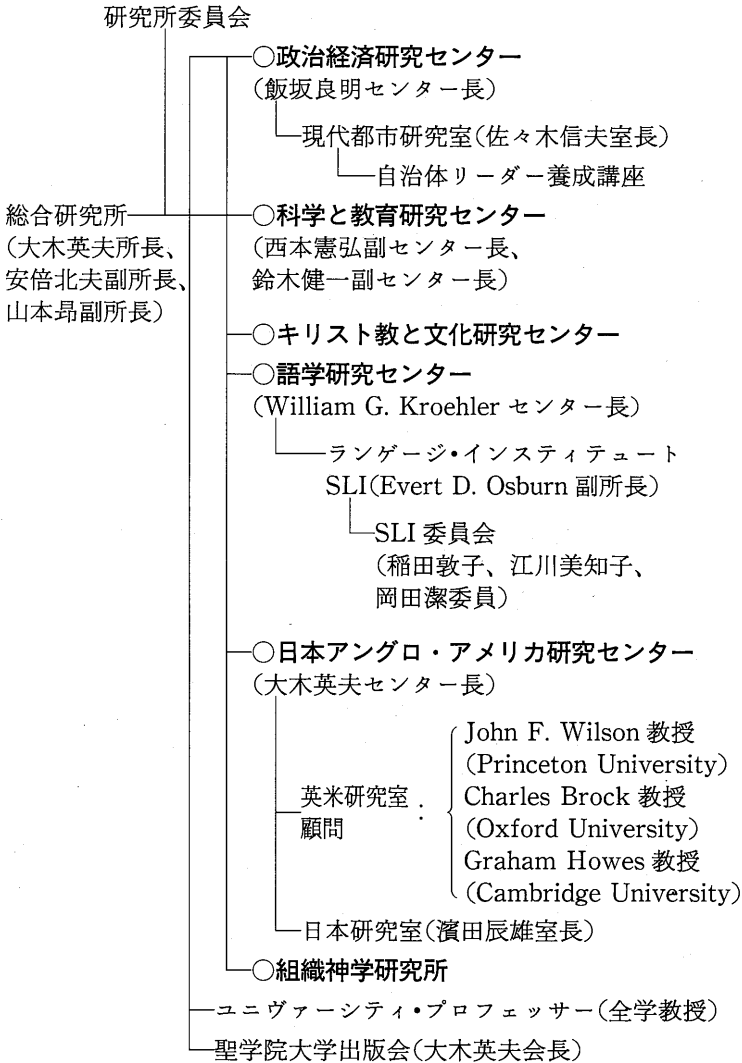
聖学院大学総合研究所は、聖学院大学を設置するときの大学教育の理念を検討する「理念検討委員会」を母胎として、学校法人 聖学院の教育・研究のシンク・タンクとしての機能を果たすために、大学設置とともに1988年4月に創設された。「聖学院大学総合研究所規程」に、「学術研究の推進の課題、法人内学校の教育の総合的研究活動をする『シンクタンク』的役割を担う」とあるように、総合研究所は、法人全体の教育にかかわる研究活動を行う。

研究活動としては、今日の学問的状况のなかで、研究領域として、「キリスト教と文化」「政治経済」「科学と教育」「語学」「日本・アングロアメリカ」「組織神学」の六つを掲げ、それぞれの領域の諸問題を学問的に研究・深化させるとともに、諸学問間の対話を深め、総合することをめざしている。

1988年には、語学研究センターのもとに「ランゲージ・インスティテュート SLI」を設置し、また、1991年には「聖学院大学出版会」を設置し、研究成果を公開・発表する機能も果たしている。また、1994年からは、地方自治体の職員の政策立案能力を向上させることをめざした「自治体リーダー養成講座」を開講し、埼玉県にある大学として、地元貢献を図っている。

現在は、「研究活動」「ランゲージ・インスティテュート SLI」「聖学院大学出版会」「自治体リーダー養成講座」の四つの部門で活動している。また、ハーバード大学が取り入れた学部・学科を越えて研究・教育できるユニバーシティ・プロフェッサー（全学教授）の制度を取り入れ、初代全学教授に、隅谷三喜男先生を迎えた（1988年～1993年）。

研究所は、1999年3月31日現在、次の研究センター・部門を持って活動している。



組織としては、所長・副所長のもとに「総合研究所委員会」が設けられ、研究所の活動計画・予算が決定される。六つの研究センターには、センター長、副センター長、また室長を設け、研究活動の推進を図っている。

総合研究所 教員組織

- 所長 大木 英夫 (1988. 4. 1～現在)
- 副所長 金井信一郎 (1988. 4. 1～1994. 3. 31)
- W・Gクレーラ (1988. 4. 1～1993. 3. 31)
- 安倍 北夫 (1994. 4. 1～1999. 3. 31)
- 山本 昂 (1994. 4. 1～1999. 3. 31)
- 研究所委員 近藤 勝彦 (1998. 4. 1～現在)
- 阿久戸光晴 (1995. 4. 1～現在)
- 阿部 洋治 (1983. 4. 1～現在)
- 菊地 順 (1998. 4. 1～現在)
- 澁谷 浩 (1996. 4. 1～現在)
- 松川 成夫 (1996. 4. 1～現在)
- 平 良 (1993. 4. 1～1997. 3. 31)
- J. デイヴィッド・リード (1993. 4. 1～1996. 3. 31)
- 戸田 直子 (1993. 4. 1～1995. 3. 31)
- 西谷 幸介 (1993. 4. 1～1995. 3. 31)
- ケネス・アンダスン (1995. 4. 1～1996. 3. 31)
- 標 宮子 (1994. 4. 1～1996. 3. 31)
- 島村 馨 (1996. 4. 1～1998. 3. 31)
- 西谷 博之 (1993. 4. 1～1998. 3. 31)
- William G. Kroehler (1988. 4. 1～現在)
- 語学研究センター長 William G. Kroehler (1988. 4. 1～現在)
- 政治経済研究センター長 飯坂良明 (1995. 4. 1～現在)
- 現代都市研究室長 佐々木信夫 (1994. 4. 1～現在)
- 日本・アングロ・アメリカ研究センター長
 - 渡邊守道 (1996. 4. 1～1997. 3. 31)
 - 大木英夫 (1997. 4. 1～現在)
- 日本研究室長 濱田辰雄 (1998. 4. 1～現在)
- 科学と教育研究副センター長 西本憲弘 (1993. 4. 1～現在)

科学と教育研究副センター長 鈴木健一 (1993. 4. 1～現在)

●教員構成

- 教授 大木 英夫 (1996. 4. 1～現在)
教授 荒木 忠男 (1996. 9. 1～現在)
教授 飯坂 良明 (1995. 4. 1～現在)
教授 永岡 薫 (1994. 4. 1～1999. 3. 31)
教授 渡邊 守道 (1995. 4. 1～1997. 3. 31)
教授 郡司 篤晃 (1998. 4. 1～現在)
教授 松村 豪一 (1998. 4. 1～1999. 3. 31)
所員 川村登喜子 (1992. 4. 1～1993. 3. 31)
助教授 西本 憲弘 (1992. 4. 1～1993. 3. 31)
専任講師 荒木 忠義 (1990. 4. 1～1999. 1. 21)
専任講師 Bryan Ashley (1990. 4. 1～現在)
専任講師 Evert D. Osburn (1990. 4. 1～現在)
専任講師 Douglas P. Mikell (1992. 4. 1～1993. 1. 7)
専任講師 大澤 麦 (1997. 4. 1～現在)
専任講師 深井 智朗 (1997. 4. 1～現在)
助手 Dean Sotherden (1997. 4. 1～現在)
客員教授 佐々木信夫 (1994. 4. 1～現在)
客員教授 速水 優 (1996. 4. 1～1998. 3. 31)
客員教授 恒松 制治 (1996. 4. 1～現在)
客員教授 金平 輝子 (1996. 4. 1～1998. 3. 31)
客員教授 西田 善夫 (1996. 4. 1～現在)
客員教授 田中 豊治 (1996. 4. 1～現在)
客員教授 Robin LeBlanc

(Oglethorpe University, 1995. 5. 30～6. 30)

特別研究員 Christopher Myers

(Emory University, 1993. 9. 1～1994. 8. 31)

●研究員 (各研究プロジェクトごとに列挙。ここでは省略)

- SLI 所長 William G. Kroehler (1998. 4. 1～現在)
SLI 副所長 Evert D. Osburn (1995. 4. 1～1999. 3. 31)
SLI 委員 稲田 敦子 (1998. 4. 1～現在)
江川美知子 (1998. 4. 1～現在)

岡田 潔 (1998. 4. 1～現在)
標 宣男 (1994. 4. 1～1997. 3. 31)
山田 克己 (1997. 4. 1～1998. 3. 31)
井上 伸子 (1996. 4. 1～1998. 3. 31)
西谷 博之 (1996. 4. 1～1998. 3. 31)

Work & Study Program

Pamela Grimes (1990. 9. 1～1992. 8. 31)

Sally Esposito (1992. 9. 1～1994. 8. 31)

Tracy Starr (1992. 9. 1～1994. 8. 31)

委託講師 Patrick Gray (1993. 9. 1～1995. 8. 31)

Alex Gray (1993. 9. 1～1995. 8. 31)

John Gibbs (1994. 9. 1～1997. 7. 31)

Sue Umezaki (Murphy) (1994. 9. 1～1997. 3. 31)

Neil Slettehaugh (1994. 9. 1～1997. 12. 31)

Michele Joy Joel (1998. 1. 1～1999. 3. 31)

非常勤講師 LaVerne Kroehler (1988. 4. 1～現在)

Mehran Sabet (1995. 4. 1～現在)

K. Ehrhardt (1997. 4. 1～現在)

●研究所事務室 山本 俊明 (1990. 1. 1～現在)

高木 博己 (1992. 4. 1～現在)

塚本 文彦 (1996. 10. 1～現在)

峯田 敏幸 (1996. 10. 1～1999. 3. 31)

萬 とも子 (1996. 4. 1～1999. 3. 31)

辻本 修 (1996. 4. 1～1996. 9. 30)

パート職員 渡辺 秋光 (1997. 4. 1～1998. 9. 30)

菅井 桂子 (1992. 9. 1～現在)

●聖学院大学出版会 (1991. 4. 1設立～現在)

会長 大木英夫 (1991. 4. 1～現在)

出版部長 山本俊明 (1991. 4. 1～現在)

編集 荒木忠義 (1991. 4. 1～1999. 1. 21)

編集・製作 峯田敏幸 (1996. 10. 1～1999. 3. 31)

編集・製作・営業 高木博己 (1992. 4. 1～現在)

出版営業
製作

辻本 修 (1996. 4. 1~96. 9. 30)
菅井桂子 (1992. 9. 1~現在)

II 研究活動

(1)講演会・シンポジウム

総合研究所では、内外の研究者と研究における交流を計っており、これまで30回におよぶシンポジウム・研究集会を開催している。

- (1)1988. 8. 19 「教皇権と公会議至上主義」
渡邊 守道 ロングアイランド大学教授
- (2)1988. 9. 28 「近代的経済人の心理と性格をめぐる——アダム・スミスの道徳哲学と経済学——」
梅津 順一 青山学院女子短大・助教授
- (3)1988. 12. 7 「バランス重視の世界経済システム——必要なポリティカル・エコノミー」
佐藤 公久 三菱総合研究所
- (4)1989. 4. 27 「わたしの学問的自伝Ⅰ」
隅谷 三喜男 聖学院大学全学教授
- (5)1989. 10. 16 「アジアにおけるキリスト教——宗教の比較考察——」
ヨアヒム・マッテス ニュルンベルク・エアランゲン大学教授
- (6)1990. 4. 23 「トレルチ思想の今日的意味——近代文化、ヨーロッパ、キリスト教の運命をめぐる」
近藤 勝彦 東京神学大学教授、聖学院大学特任教授
- (7)1990. 6. 6 「わたしの学問的自伝Ⅱ」 隅谷 三喜男
- (8)1990. 11. 16 「宗教史から宗教社会学へ——エルンスト・トレルチとマックス・ヴェーバー——」
ヨハネス・ヴァイス カッセル大学教授
- (9)1991. 3. 18 国際シンポジウム「ヴェーバーとトレルチの宗教社会学をめぐる」
「マックス・ヴェーバーの宗教社会学——過去と現

在」

F・H・テンブルック テュービンゲン大学教授

「マックス・ヴェーバーとドイツの宗教社会学」

ヨアヒム・マッテス (前出)

「エルンスト・トレルチにおける『人格と宗教』」

近藤 勝彦 (前出)

ラインホルド・ニーバー生誕100年記念行事

(10)1992. 4. 24 「ニーバー神学とマルクス主義——1930年代のニーバー——」 高橋 義文 三育学院短大・教授

(11)1992. 5. 29 「力と愛——ニーバー思想の核心——」
佐藤 敏夫 東京神学大学名誉教授

「ラインホルド・ニーバーにおけるデモクラシーの神学」

近藤 勝彦

(12)1992. 6. 19 「ニーバーの思想——人間と歴史への洞察——」
武田 清子 国際キリスト教大学名誉教授

「恩師ラインホルド・ニーバー」

大木 英夫 東京神学大学教授

(13)1992. 7. 10 シンポジウム「ニーバーとアメリカ『アメリカ史の皮肉』をめぐって」

佐々木 毅 東京大学法学部・教授

鈴木 有郷 恵泉女学園大学教授

平田 忠輔 山梨県立女子短大・助教授

千葉 眞 国際キリスト教大学準教授

(14)1993. 3. 30 “Higher Education in Britain”
グラハム・ハウズ ケンブリッジ大学トリニティー
ホール教授

(15)1993. 4. 25 「スイスの初等教育と外国語教育」
イーリス・ヤウマン-ブルー

(16)1993. 6. 24 「異人論をめぐって」
島田 信吾 ニュルンベルク・エアランゲン大学社
会科学研究センター研究員

(17)1994. 4. 13 「埼玉県への定着をはかる聖学院大学への期待」
西本 憲弘 聖学院大学助教授

- (18)1994. 4. 27 「理念と利害関係——マックス・ヴェーバーの現世
外救済宗教の起源論」
スティーヴン・コールバーク ポストン大学助教授
- (19)1994. 5. 20 シンポジウム「宗教・経済・倫理——その相互関係
の社会理論的・存在論的分析」
ペーター・コスロフスキー ハノーヴァー哲学研究
所所長
コメンテータ 山脇直司 東京大学教養学部教授
高坂史郎 近畿大学助教授
通訳 鈴木伸太郎 近畿大学専任講師
荒木忠義 聖学院大学総合研究所講師
- (20)1994. 9. 21 「法律人・経済人の合理的行動とは何か」
ホモ・ユリディクスとホモ・エコノミクス
グンター・トイプナー ロンドン政治経済大学教授
- (21)1995. 4. 12 「マックス・ヴェーバーにおける死の理解」
コンスタンス・ザイファート ハイデルベルク大学
社会学研究所教授
- (22)1995. 5. 26 「埼玉県における政令指定都市の可能性」
佐々木信夫 聖学院大学総合研究所客員教授
- (23)1996. 4. 15 「スティグマとカリスマ——ヴェーバーの概念をめ
ぐって」
ヴォルフガング・リップ ヴェルツブルグ大学教授
- (24)1996. 5. 10 シンポジウム「埼玉県の21世紀のまちづくりを考え
る」
基調講演「埼玉県の21世紀のまちづくりを考える」
前島根県知事 恒松治治氏
パネリスト 前田 信雄 聖学院大学教授
村上 公久 聖学院大学助教授
植木 義展 埼玉県政策企画監
大塚 博 上尾市都市計画課長
田中 芳樹 ARC設計事務所
コーディネータ 聖学院大学総合研究所客員教授 佐々木信夫
- (25)1996. 12. 3 「ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本

主義の精神』の初版からの改訂について」

ヨハネス・ヴァイス カッセル大学教授

- (26)1997. 5. 16 シンポジウム「これからの環境政策を考える」基調講演「これからの環境政策」

寄本 勝美 早稲田大学教授

パネリスト 島村慎市郎 越谷市長

佐々木信夫

村上 公久 聖学院大学助教授

コーディネータ 大山 礼子 聖学院大学助教授

アドバイザー 寄本 勝美

- (27)1997. 6. 2 国際シンポジウム「グローバリゼーションとローカリゼーション」

「社会の近代化と国家アイデンティティの動態」

オットハイム・ラムステッド ビーレフェルト大学教授

「東欧における変容過程」

イルヤ・スルバル ニュルンベルグ・エアランゲン大学教授

「制度上の文化比較基礎としての社会科学の Kategorii の土着化をめぐる諸問題」

ハンス・ユルゲン・ダーハイム ビーレフェルト大学名誉教授

コメンタター 宮島 喬 立教大学教授

八幡 康貞 上智大学教授

- (28)1997. 9. 23 国際シンポジウム「グローバリゼーションと環境・資源保全の規範——異文化理解と持続的開発の可能性」

(共催)

国際条約と野性生物の保全 金子与止男

海洋環境の保護 林 久茂

環境問題と文化価値 飯坂 良明

持続可能な社会のための自然科学 H・クルupp

自然法および災害の社会的な責任配分

K・P・ケピング

- (29)1997. 12. 16 「アメリカ倫理学会の動向」
 デーヴィッド・エイハン ラグレンジ・カレッジ講
 師
- (30)1998. 4. 21 シンポジウム「21世紀への都心づくりを考える」
 基調講演 石原信雄 元内閣副官房長官
 政策提言 「21世紀への都心づくりと大都市づくり」
 佐々木信夫
- パネリスト 大西 隆 東京大学工学部教授
 本田 弘 日本大学教授
 宮田 保夫 彩の国新都市産業人懇話会会長
 森野 美徳 ジャーナリスト
 宮崎 絢子 テレビ・プロデューサー
 大森 達也 聖学院大学助教授
 アドヴァイザー 石原信雄
 コーデネータ 佐々木信夫
- (31)1998. 12. 15 「人間福祉学における2、3の研究課題について」
 郡司 篤晃 聖学院大学総合研究所教授
- (32)1999. 2. 12 「『レッシングとドイツ啓蒙』をめぐる」
 安酸 敏真 聖学院大学人文学部教授
- (33)1999. 3. 8 “Western Impact and Asian Values in Japan's
 Modernization: A Weberian Critique”
 Wolfgang Schwentker デュッセルドルフ大学
 講師

(2)共同研究

総合研究所では、各教員、研究者のそれぞれの専門分野での研究活動を重んじながら、その成果を持ち寄り、総合的に研究する「共同研究」を進めている。これまでに下記の共同研究プロジェクトを実施し、また現在、定期的に活動している。

1 デモクラシーの研究 (1991年～1993年)

近代デモクラシー思想の起源をイギリス・ピューリタニズムに求め、その思想が西欧、アジアにおいてどのように展開し、また法制

度にどのように実現してきたか、をあとづける。

本研究には、日本私立学校振興財団の「学術研究振興資金」の助成を受けた。

研究組織 酒井 文夫 聖学院大学政治経済学部教授 研究代表
隅谷三喜男 聖学院大学全学教授
大木 英夫 東京神学大学教授
近藤 勝彦 東京神学大学教授
秋吉 祐子 聖学院大学政治経済学部教授
初宿 正典 京都大学法学部教授
吉田 博司 聖学院大学政治経済学部教授
松井 弘明 聖学院大学政治経済学部教授
鐸木 昌之 聖学院大学政治経済学部助教授
霜田美喜雄 聖学院大学政治経済学部教授
永岡 薫 樟蔭女子短期大学教授

(1)1991. 9.27 「デモクラシーと法制度——違憲審査制を視座の中
止として——」 酒井 文夫 聖学院大学教授

(2)1991. 12. 9 「東アジアのデモクラシーと開発独裁——韓国・台
湾と中国——」隅谷 三喜男、聖学院大学全学教授

(3)1992. 1.20 「エルンスト・トレルチにおける自然法の問題——
特にデモクラシーとキリスト教の関わりをめぐって」
近藤 勝彦 東京神学大教授、聖学院大学特任教授

(4)1992. 3.16 「デモクラシーとピューリタニズム」
大木 英夫 東京神学大学教授

(5)1992. 5.22 「英米デモクラシー思想の起源——J・ロックをめぐ
って——」 永岡 薫 滋賀大学名誉教授

(6)1992. 7. 6 「イギリスとアメリカの民主主義と法」
平 良 聖学院大学教授

(7)1992. 11.13 「現代中国における民主主義」
秋吉 祐子 聖学院大教授

(8)1993. 1.22 「首領制国家における首領と人民——愛と忠孝心の
交換に見る北朝鮮の国家観——」
鐸木 昌之 聖学院大学助教授

- (9)1993. 3. 15 「宗教寛容とデモクラシー——ミルトンとウィリアムズ——」 大木 英夫
- (10)1993. 5. 14 「ロシアにおける信教の自由の可能性」
霜田 美樹雄 聖学院大学教授
「ロシアにおけるデモクラシーの可能性」
松井 弘明 聖学院大学教授
- (11)1993. 6. 11 「デモクラシーと国体——日本におけるデモクラシーの可能性」 吉田 博司 聖学院大学教授
- (12)1993. 7. 12 「近代ドイツとデモクラシー——G・イエリネックを中心として——」
初宿 正典 京都大学法学部教授
- (13)1993. 11. 19 「中東におけるデモクラシーの可能性——イスラム圏——」 富田 広土 慶応大学法学部教授
- (14)1993. 12. 13 「イギリス・デモクラシーとピューリタニズム——A・D・リンゼイのデモクラシー思想をめぐって——」 永岡 薫 (前 掲)

2 「自由の伝統の再検討」(1994~1996年)

イギリス、アメリカなど西欧諸国のデモクラシーを支えている「自由の伝統」をその思想的源流に遡って解明し、現代社会における自由の課題を追求する。

研究組織 平 良 聖学院大学政治経済学部教授 研究代表
永岡 薫 聖学院大学大学院教授
大木 英夫 東京神学大学教授
近藤 勝彦 東京神学大学教授
大木 雅夫 上智大学教授
田中 豊治 大東文化大学教授
飯坂 良明 聖学院大学大学院教授
渡邊 守道 聖学院大学大学院教授

- (1)1994. 10. 12 「自由の伝統について」 大木 英夫
- (2)1994. 12. 5 「ミルトン『イングランド国民のための第一弁護論』における自由、法、議会」
野呂 有子 東京成徳短大・助教授

- (3)1995. 1. 23 「自由の伝統とプロテスタンティズム——ヴェーバー、セイバイン、カイパーの理解をめぐって」
近藤 勝彦
- (4)1995. 2. 20 「自由結社の思想——アメリカにおける自由の伝統——」
柴田 史子 聖学院大学助教授
- (5)1995. 3. 13 「アングロ・アメリカ・プロテスタントにおける自由の概念」
J・D・リード 聖学院大学教授
- (6)1995. 5. 29 「近代日本における『国家と宗教』」
酒井 文夫
- (7)1995. 6. 19 「アメリカ合衆国憲法における修正第一条」
平 良
- (8)1995. 9. 22 国際シンポジウム「自由の伝統の再検討」
J・F・ウィルソン プリンストン大学大学院教授
G・ハウス ケンブリッジ大学トリニティ・ホール教授
C・ブロック オックスフォード大学マンスフィールドコレッジ教授
コメンテータ 永岡 薫 聖学院大学総合研究所教授
飯坂 良明 聖学院大学総合研究所教授
渡邊守道 聖学院大学総合研究所教授
特別コメンテータ コリン・ルーカス オックスフォード大学
ベリオル・コレッジ学長
- (9)1995. 9. 23 セミナー「信教の自由をめぐって」
「アメリカ合衆国憲法修正第一条」
J・F・ウィルソン
「イギリスにおける信仰と国家」 G・ハウス
- (10)1995. 11. 13 「ヴェーバー理論における市民的自由」
田中 豊治 大東文化大学教授
- (11)1996. 1. 19 「法における自由」 大木 雅夫 上智大学教授
- (12)1996. 5. 20 「デモクラシー・人間性・政治」
千葉 眞 国際キリスト教大学教授
- (13)1996. 6. 17 「自由と自由主義」 佐々木 毅 東京大学教授
- (14)1996. 7. 15 「自由と公共性」 間宮 陽介 京都大学大学院教授
- (15)1996. 10. 21 「市民社会と開発主義」
八木 紀一郎 京都大学教授
- (16)1996. 11. 18 「ドイツ的自由の理念の思想史的考察」

安酸 敏眞 聖学院大学教授

(17)1996. 12. 16 「日本型資本主義と市民社会」

岩井 克人 東京大学教授

(18)1997. 3. 3 シンポジウム「自由の伝統と市民社会」

加藤 節 成蹊大学教授

永岡 薫 聖学院大学大学院教授

大木 英夫 聖学院大学総合研究所長

3 「市民社会」と国家の役割の研究——近代「市民社会」成熟度の国際比較 (1997年～1999年)

研究組織 永岡 薫 聖学院大学大学院教授 研究代表

大木 英夫 聖学院大学大学院教授

近藤 勝彦 東京神学大学教授

飯坂 良明 聖学院大学大学院教授

平 良 聖学院大学教授

鐸木 昌之 聖学院大学助教授

荒木 忠男 聖学院大学総合研究所教授

阿久戸光晴 聖学院大学助教授

田中 豊治 聖学院大学総合研究所客員教授

荒木 忠義 聖学院大学総合研究所専任講師

大澤 麦 聖学院大学総合研究所専任講師

(1)1997年5月19日 「J・ミルトンの『市民社会』論」

新井 明 日本女子大学教授

(2)1997年6月16日 「ジョージ・ローソンの『リヴァイアサン』批判——17世紀イングランドにおける〔共同社会〕と、〔国家〕についての一考察」

大澤 麦 聖学院大学総合研究所特任研究員

(3)1997年7月14日 「 Cromwellにおける『信仰の自由』と国家」

澁谷 浩 聖学院大学教授

(4)1997年10月13日 「J・ロックの市民社会における自然権と勤勉」

三浦 永光 津田塾大学教授

(5)1997年11月17日 「ルソーにおける市民社会と国家」

阪上 孝 京都大学教授

- (6)1997年12月15日 「ヘーゲル『法哲学』における市民社会と国家」
山邊 知紀 金沢大学教授
- (7)1998年 1月19日 「アダム・スミスにおける人間・社会・国家」
妹尾 剛光 関西大学教授
- (8)1998年 4月13日 「アメリカにおける市民社会と国家」
有賀 貞 独協大学大学院教授
- (9)1998年 6月15日 「ヴェーバー理論におけるイギリスの市民社会
と国家」 田中 豊治
- (10)1998年 7月13日 「トックヴィルとデモクラシー」
田中 治男 成蹊大学教授
- (11)1998年10月12日 「近代イギリスの中産層とアソシエーション」
梅津 順一 聖学院大学教授
- (12)1998年12月 7日 「ハーバースマスにおける公共性の概念と『市民
社会』」 清水 多吉 立正大学教授
- (13)1999年 1月18日 「グローバリゼーションと市民社会」
飯坂 良明
- (14)1999年 2月15日 「ロジャー・ウィリアムズの教会と国家の分離
論」 阿久戸 光晴 聖学院大学助教授
- (15)1999年 3月15日 「イギリス経験論とロックの政治哲学」
永岡 薫

4 「政治学と経済学の統合の理念」(1992年)

政治学と経済学の統合の理念を解明する。

研究組織 カリキュラム哲学研究会のメンバーで構成。

金井信一郎 学長
近藤 勝彦 特任教授
平 良 教授
霜田美樹雄 教授
富田 重夫 教授
磯部 浩二 教授
寺田 正義 教授
J・D・リード 教授
鵜沼 裕子 教授

1992. 7. 8 「政治学と経済学の統合は可能か、また必要か」

田中 宏 慶応義塾大学教授

「政治学と経済学の統合は可能か」

根岸 毅 慶応義塾大学教授

5 学期制研究会（1993年～1995年）

学期制度を導入するに当たっての諸問題を研究。

成果は『聖学院大学活動報告書』1995年に収録。

研究組織 平 良 聖学院大学教授 研究代表
北山 直樹 聖学院大学教授
石津 靖大 聖学院大学助教授
土方 透 聖学院大学助教授
西谷 博之 女子聖学院短期大学教授
竹野 一雄 女子聖学院短期大学教授
林 収正 女子聖学院短期大学教授

6 「英語教育研究」(研究代表 W・G・クレーラ短大学長 [1993～1995年]、山本 昂 短期大学学長 [1996])

1 一貫教育としての英語教育研究（1992～1993年）

92年12月18日（金）①Objectives目標

W. G. Kroehler（女子聖学院短期大学学長）

93年1月29日（金）②Testing テスト

R. H. Thrasher（国際基督教大学教授）

93年2月17日（水）③英語による小学校教育

加藤学園暁秀初等学校見学

93年3月8日（月）④小学校の英語教育

菅浪 正雄 立教小学校

2、大宮・上尾キャンパスにおける英語教育研究（1993～1996年）

(1) 研究会組織

大 学——J・D・リード、杉本栄司、寺田正義、大井上滋、鹿
瀬颯枝、D・T・グリフィー

短 大——W・G・クレーラ（研究代表）、K・アンダーソン、
D・バーガー、江川美知子、岩崎攝子、岡田潔

研究所——E・D・オズバーン、B・アシュレー、荒木忠義

この研究会構成員の決定により、「語学教育研究会」が開始された。(なお、本研究は、日本私学振興財団の特別補助「特色ある研究」に応募し、1993年度から4年間補助を受けた。)

(2) 英語教育研究会の活動経過 (研究会・調査・見学)

1993. 3. 18 研究計画を話し合う (大学5人、短大3人、総合研究所2人)

第1回93. 5. 7 国際基督教大学のELPについて

Randolph H. Thrasher 国際基督教大学教授

第2回93. 7. 2 筑波大学外国語センターの語学教育

島岡 丘 筑波大学教授

第3回93. 10. 21 Goals and Objectives in Language Education

William G. Kroehler

第4回93. 12. 9 Curriculum for English Language Education

Dale T. Griffiee

第5回94. 3. 30 Learner Development

東京外国語大学講師 Richard Smith

第6回94. 6. 13 Test, Curriculum,……

J.D.Brown ハワイ大学教授

第7回94. 12. 14 Goal Setting

Kenneth Anderson 教授

第8回95. 2. 9 L. L.

寺田 正義 聖学院大学教授

第9回95. 3. 2 Needs Analysis

Evert D. Osburn 聖学院大学総合研究所講師

1995年1月に大学・短大学生を対象に英語教育アンケートを実施し、その結果を発表している。Newsletter 4-4にNeeds Analysisの目的と調査結果が報告されている。

第10回95. 4. 24 他大学のCurriculumの事例研究(1) (ICUのELP 見学と調査・研究)

第11回95. 5. 22 他大学のCurriculumの事例研究(2) (ASIJ見学と調査・研究)

第12回95. 6. 6 Vocabulary学習について Paul Nation ニュー
ジーランド・ヴィクトリア大学教授

第13回95. 6. 29 大学・短期大学の英語教育プログラムの現状と新

プログラムについて

Dale Griffiee, Ken Anderson, Evert Osburn 三氏の発表と討議

第14回95. 7. 15 大学・短期大学の共通英語教育プログラムの作成
W. G. Kroehler

第15回95. 9. 11 大学・短期大学の共通英語教育プログラムの作成
Dale Griffiee, Ken Anderson, Evert Osburn 三氏
の発表と討議

第16回96. 7. 9 SEPのGoalsとSyllabusについて
W・G・クレーラ

第17回96. 10. 15 SEPの中間報告
吉竹 ソニア

第18回96. 12. 10 本学の英語教育（寺田レポートを中心に）
山本 昂

第19回96. 12. 17 SEPと大学における英語教育
寺田 正義

第20回97. 1. 21 中高の英語教育、Vocabulary、語学教育と英語
教育研究
山本 昂

第21回97. 3. 8 英語教育研究会4年間を振り返って
W・G・クレーラ、山本 昂

この他、ACTFLほかの研修会 Workshop を5回行った。

第1回1993. 9. 13~14 Reflections on English Language Tea-
ching
William G. Kroehler

第2回1994. 9. 12~15 Summary of Seigakuin's First ACTFL
Workshop
Evert D. Osburn

第3回1995. 9. 4~6 ACTFL 研修 Test と Curriculum

第4回1996. 2. 3~4 ACTFL Workshop "Receptive Skills"
Irene Thompson

第5回1997. 2. 13 Workshop "Computer Adaptive Testing"
Patricia Dunkel

(3) 聖学院英語教育プログラム (SEP) の作成

(1) 1994年12月21日第1回語学教育懇談会（両大学、学長、学部
長、学科長、教務部長、語学教育担当者などによる構成）が開催さ
れ、大宮・上尾キャンパスの語学教育とくに英語についての統一し

た取り組みが話し合われる場所が作られた。

(2) 1994年12月21日、1995年2月8日、3月1日に開催された語学教育懇談会で下記の望ましいとされた。

- ①1996年4月から大学・短期大学共通の英語教育プログラムを開始する。
- ②学期制とする。前後期で統一テストを行う。
- ③1年生のみを共通プログラムとする。
- ④時間割・契約専任講師について検討する。
- ⑤GoalsとObjectivesの決定、Curriculumの作成(科目名、時間数などの決定)の作始める。

7 語学教育研究委員会 (1997年～1999年)

聖学院英語教育プログラム(SEP)をさらに広範囲に展開し、また全法人の英語教育の一貫プログラムを作成することを目的として活動している。

研究組織 山本 昂 女子聖学院短期大学学長 研究代表
寺田 正義 聖学院大学教授
大井上 滋 聖学院大学教授
杉本 栄司 聖学院大学教授
Dale T. Griffiee 聖学院大学人文学部助教授
梅津 迪子 女子聖学院短期大学助教授
David Burger 女子聖学院短期大学教授
須山名保子 女子聖学院短期大学助教授
Evert D. Osburn 聖学院大学総合研究所専任講師
Bryan Ashley 聖学院大学総合研究所専任講師
荒木忠義 聖学院大学総合研究所専任講師

①1997. 7. 8 語学教育研究委員会「語学教育共同研究について」

②1997. 11. 25 「聖学院大学英語カリキュラムについて」

寺田正義 聖学院大学教授

③1998. 2. 27 「聖学院大学英語教育の発展を目指して」

山本昂 女子聖学院短期大学学長

その他研修として

1997. 11. 28～29 バイリンガル教育研修

(加藤学園) ミシェル・ジョイ・ジョエル氏

1998. 3. 9~10 ヴォキャブラリー学習について

ポール・ネーション ニューージーランド・ヴィクトリア大学教授

④1998. 7. 21 「聖学院大学における今年度の英語教育状況」

寺田正義 聖学院大学教授

⑤1998. 10. 21 「ケラープラン——その歴史と教育システム」

江川美知子 女子聖学院短期大学教授

⑥1998. 11. 10 「聖学院大学語学教育委員会の活動について」

寺田正義

⑦1999. 1. 19 「21世紀への外国語教育改革の目指すもの」

小池生夫 明海大学大学院教授

⑧1999. 1. 16 「LL システムの更新、語学教育委員会に関する報告」

寺田正義

その他 Workshop として、

1999. 3. 12~13 Oral Proficiency Interview Testing(OPI) &
Oral Proficiency-Based Courses Mervyn Lewis

8 「J・ロックの『政治哲学』とそれを支える福音理解——ロック『パウロ書簡注解』の翻訳とロック思想の再構成」(第1期1995~1997、第2期1998~2000年)

研究組織 永岡 薫 聖学院大学総合研究所教授 研究代表

澁谷 浩 聖学院大学政治経済学部教授

荒木 忠義 聖学院大学総合研究所専任講師

野呂 有子 東京成徳短大教授

大澤 麦 聖学院大学総合研究所専任講師(現在)

川添美央子 慶応義塾大学大学院

1995年度は、13回研究会を開催した。I. T. ラムゼイ編ジョン・ロック『キリスト教の理性的妥当性』の序文、また、オックスフォード版編者 A. W. ウェインライトのジョン・ロック『パウロ書簡注解』序文の翻訳をし、News letter 紀要に発表した。

1996年度は、ロックの『パウロ書簡注解』の「序文」「ガラテヤ」を中心に読解と翻訳をすすめた。4月22日から3月21日まで、12回開催した。

1997年度は、4/14 4/28 5/26 6/9 6/23 7/7
7/14 10/13 11/10 12/15 '98 2/27の11回開催し、『パウ
ロ書簡注解』序文の解読及び翻訳に取り組んだ。

1998年度は、4/23 6/22 7/17 7/27 10/22 11/30
12/10 '99 1/28 3/15に9回開催した。

研究員に慶応義塾大学大学院生 川添 美央子氏を加えJ・ロッ
クの『ガラテヤ書注解』及び『コリント書注解』の解読と翻訳に従
事した。

9 「埼玉県の中枢都市圏構想および都市政策に関する調査研究」 (第1期1996～1998年)

研究組織	佐々木信夫	聖学院大学総合研究所客員教授	研究代表
	恒松 制治	聖学院大学総合研究所客員教授	
	大木 英夫	聖学院大学総合研究所所長	
	前田 信雄	聖学院大学政治経済学部教授 (96年度)	
	大山 礼子	聖学院大学政治経済学部助教授 (96年度)	
	村上 公久	聖学院大学人文学部助教授	
	黒木 章	聖学院大学人文学部教授 (97年度～)	
	大森 達也	聖学院大学政治経済学部助教授 (97年度 ～)	
	土居 直美	平成国際大学法学部助教授	
	小林 一彦	埼玉県政策企画監付専門調査員(96～97年 度)	
	蟹谷 和弘	埼玉県政策調査室主幹 (98年度)	
	宮下 和雄	埼玉県政策調査室主査 (98年度)	
	稲葉 尚子	埼玉県工業技術センター総務課長	
	平林 実	大宮市企画調整課主査	
	柳沼 清彦	与野市秘書広報課秘書係長	
	細淵 和男	浦和市企画課主査	
	山本 兼郎	上尾市政策企画室主査	
	北村 芳之	埼玉総合研究機構研究主幹 (98年度)	
	山岡 和彦	埼草加市財政課	
	神田浩一郎	狭山市企画課	

田中芳樹 ARC設計事務所所長

年度	回	月日	テ ー マ	講 師
96	1	6/19	埼玉県の都市政策の課題	佐々木信夫
96	2	7/30	浦和・与野・大宮・上尾市の政策課題と現状。埼玉総研の研究について	細淵・柳沼・平林・山本・山岡
96	3	10/2	新都心計画について。三市政令指定都市の市民生活のヴィジョンについて	田中芳樹 小林眞（浦和市企画部長）
96	4	11/28	埼玉県長期ヴィジョンと中枢都市圏構想	利根川啓一（埼玉県企画調 整課長）
96	5	2/14	今年度の研究成果の総括	佐々木信夫
97	1	6/11	さいたま新都心の名称をめぐって	佐々木信夫
97	2	7/16	都市の概念とさいたま新都心の機能について	佐藤達郎（三菱総合研究所 都市空間部長）
97	3	10/7	経済界から見た三都市合併とさいたま新都心	宮田保夫（三国コカ・コー ラボトリング㈱相談役名誉 会長）
97	4	12/12	国際化を考える。新都心を中心とした合併都市づくりについて。	大森達也・ 稲葉・小林・細淵・柳沼・山本
97	5	2/24	新都心を中心とした合併都市づくりについて。新都心づくり提言のまとめ	神田・田中・山岡
98	1	4/14	政策提言の検討	佐々木信夫
98	2	5/19	政令指定都市の課題と改革——府県との関係と大都市制度の確立	本田弘（日本大学教授）

- 98 3 6 / 23 分権時代の埼玉県と市 青木信之 (埼玉県総合政策
町村 部長)
- 98 4 9 / 29 21世紀の都市開発をめ 原田敬美 (S E C 計画事務
ざして 所代表)
- 98 5 11 / 24 都市制度の国際比較 中邨章 (明治大学教授)
- 98 6 2 / 23 都市経営と政令市制度 高寄昇三 (甲南大学教授)
をめぐって—運用の実
態と問題点を中心に—

10 「算数・数学一貫教育の研究」(研究代表 鈴木健一副センター
長) 第1期1993年～1995年、第2期、1996年～1998年)

聖学院小学校、聖学院中学校・高等学校、女子聖学院中学校・高
等学校の一貫した数学と算数のプログラムを作成するための研究を
進めている。

研究組織 鈴木 健一 女子聖学院中学校高等学校教頭 研究代表
尾作 信昭 聖学院小学校 校長
富沢寿美子 聖学院小学校 教頭
三部 茂康 聖学院中学校高等学校 教諭
木村 徹朗 女子聖学院中学校高等学校 教諭

期	年度	回	月日	曜	時間	テーマ	講師
I	93	1	7 / 22	(木)		教材・教案つく りをめざして	木村・三部
	93	2	2 / 22	(火)	15:50～17:30	面積図・線分 図—その1—	木村
	94	3	5 / 31	(火)	16:25～18:00	聖学院小学校 の実践的研究	角田・村上・野 田
	94	4	7 / 4	(月)	16:15～18:00	聖学院中学校の カリキュラム	三部
	94	5	9 / 12	(月)	16:15～18:00	正負の数の導 入と計算指導	木村
	94	6	11 / 21	(月)	16:15～18:00	分配の法則 (その1)	村上・木戸・工 藤・野田・遠藤

94	7	1 / 23	(月)	16:15~18:15	分配の法則 (その2)	聖小教師・三部	
94	8	3 / 6	(月)	16:15~18:00	実験授業の反省	木村	
95	9	6 / 26	(月)	16:15~18:00	中学校の数学 授業での実際	三部・木村	
95	10	11 / 21	(火)	16:15~18:00	今年度の実験 授業の内容	木村	
95	11	2 / 9	(金)		実験授業の報 告と反省	木村	
95	12	3 / 11	(月)		三年間の研究 の反省		
II	96	1	9 / 30	(月)	16:30~18:00	第II期の研究について	
	96	2	11 / 11	(月)			
	96	3	12 / 9	(月)			
	97	1	7 / 4	(金)	16:00~18:30	中学校の理科 教育における 量の問題	鈴木
	97	2	11 / 21	(金)	17:00~19:00	聖学院小学校算 数研究部会報告	木越
	97	3	3 / 13	(金)	16:30~18:30	研究授業報告	木村
	98	1	9 / 14	(月)	16:30~18:30	今年度の研究 について	
	98	2	11 / 24	(火)	16:30~18:30	小学校におけ る「関数」概 念の芽生え 今年度の研究 授業のアウト ライン	野田 木村
	98	3	2 / 18	(木)		学習指導要綱の 改正と算数数学 の授業について	高橋義雄 (学習院初等 科長)

11 「コンピューター貫教育の研究」(研究代表 鈴木健一副センタ

一長) (1996年～1998年)

聖学院小学校、聖学院中学校・高等学校、女子聖学院中学校・高等学校の一貫したコンピュータ教育のプログラムを作成するための研究を進めている。

研究組織 鈴木 健一 女子聖学院中学校高等学校教頭 研究代表
尾作 信昭 聖学院小学校 校長
富沢寿美子 聖学院小学校 教頭
田村 一秋 聖学院小学校 教諭
九谷 地三 聖学院中学校高等学校 教諭
井合 澄 女子聖学院中学校高等学校 教諭

年度	回	月日	曜	時間	テーマ	講師／発表者
96	1	11/15	(金)	16:30～18:00	聖学院における コンピュータ教育 の実情	井合・田村・九谷
96	2	2/14	(金)	16:30～18:00	1 聖小及び女子聖のコンピュータ教育の実際 2 家庭におけるコンピュータ利用の実情	
97	3	6/4	(水)	16:30～18:00	アンケートのまとめについて	
97	4	9/12	(金)	16:30～18:00	アンケートの最終報告	
97	5	11/29	(木)	17:00～19:00	聖学院のホームページについて	山下研一 (広報センター)
97	6	2/27	(金)	16:30～18:00	美術教育とコンピュータ	渡邊しのぶ (女子聖)
98	7	6/26	(金)	17:00～18:45	ディベートとコンピュータ	筑田周一 (女子聖)
98	8	2/22	(月)	17:00～	理科教育におけるコンピュータの利用	松ノ井寛 (女子聖)

11グローバリゼーションの文脈における総合的日本研究（大木英夫
所長）（1996年～1998年）

日本を相対化し、客観化する視座を、グローバリゼーションの文脈
におき、21世紀における日本の位置づけ、そこにおける日本人の精
神的課題を明らかにする。

研究組織 大木 英夫 聖学院大学総合研究所 所長 研究代表
古屋 安雄 国際キリスト教大学教授
大木 雅夫 上智大学教授
近藤 勝彦 東京神学大学教授
鵜沼 裕子 聖学院大学教授
澁谷 浩 聖学院大学教授
飯坂 良明 聖学院大学大学院教授
濱田 辰雄 聖学院大学講師
標 宮子 女子聖学院短期大学教授
渡邊 正人 女子聖学院短期大学助教授
荒木 忠男 聖学院大学総合研究所教授

1996. 11. 22 「日本研究の方法をめぐる」

1997. 2. 29 「現代日本の新宗教——世俗化とシンクレティズムの
緊張」

クラウス・ペーター・ケピング
ハイデルベルク大学社会人類学研究所教授

1997. 12. 8 「本居宣長のやまとたましい」

濱田 辰雄 聖学院大学講師

1998. 2. 9 「平川 「祐弘の『和魂洋才の系譜』をめぐる」

鵜沼 裕子 聖学院大学教授

1998. 3. 9 「加藤 仁平の『和魂漢才説』をめぐる」

標 宮子 聖学院大学教授

1998. 5. 18 「古事記の世界——神・人・世界観をめぐる」

渡邊 正人 聖学院大学助教授

1998. 9. 14 「カミの語源——記紀の世界」

須山 名保子 聖学院大学教授

1998. 12. 14 「日本思想史の中の日本書紀の注釈史をめぐる」

渡辺 正人 聖学院大学助教授

1999. 2. 1 「加藤 仁平の『和魂漢才説』をめぐって」

加藤 久孝 東京神学大学

12朝鮮半島と東北アジア研究 (研究代表、鐸木昌之助教授)
(1997～1999年)

研究組織 鐸木 昌之 聖学院大学助教授表

河上 民雄 聖学院大学大学院講師

池 明観 翰林大学校日本学研究所長

激動の朝鮮半島情勢を中心に、中国、日本との関わりの中から、
日本が果たすべき役割、使命を解明する。

1997. 10. 28 国際シンポジウム 「南北朝鮮の現状を語る」

池 明観 韓国 翰林大学校日本学研究所長

鐸木 昌之 聖学院大学助教授

河上 民雄 聖学院大学大学院講師

秋元 千明 NHK国際部記者

1998. 7. 22 講演「朝鮮半島の現状と日本の役割」

岸 俊郎 NHK ソウル支局長

13パウル・ティリッヒ研究 (1998年～2000年)

哲学、宗教学など多方面に影響を与えた20世紀の神学者パウル・
ティリッヒの思想をその主著『組織神学』から解明する。

研究組織 深井 智朗 聖学院大学総合研究所 講師 研究代表

大木 英夫 聖学院大学総合研究所 所長

古屋 安雄 国際キリスト教大学名誉教授

熊沢 義宣 聖学院大学人文学部教授

阿久戸光晴 聖学院大学政治経済学部助教授

菊地 順 聖学院大学人文学部助教授

高橋 義文 三育学院短期大学学長

森本あんり 国際キリスト教大学準教授

佐藤 司郎 東北学院大学教授

朴 憲郁 東京神学大学助教授

清水 正 青山学院高等学校 教諭

1998. 5. 5 「ティリッヒ『組織神学』序論」
 深井 智朗 聖学院大学総合研究所専任講師
1998. 6. 30 「同書第一部」 朴 憲郁 東京神学大学助教授
1998. 7. 14 「ティリッヒ研究の問題点」
 大島 末男 麗澤大学教授
1998. 8. 28～ 8. 29 「ティリッヒ『組織神学』第二部 存在と神」
 「存在と神」 森本 あんり 国際キリスト教大学準教授
- 「ティリッヒ神学の素描」 藤倉 恒雄 聖公会東松山教会聖ルカ
 教会牧師、司祭
1998. 10. 27 「ティリッヒの存在論」
 茂 洋 神戸女学院大学名誉教授
1998. 12. 1 「ティリッヒ『組織神学』第二巻 キリスト論」
 深井 智朗 聖学院大学総合研究所専任講師
 相沢 一 聖学院大学総合研究所
1999. 1. 15 「ティリッヒのキリスト論」
 清水 正 青山学院高等部
1999. 3. 23 「ティリッヒの宗教思想の発展と根本問題」
 芦名 定道 京都大学助教授

III ランゲージ・インスティテュート (SLI と略称する)

総合研究所に、研究成果の公開として、学生および一般社会人を対象にした、語学研修機関、ランゲージ・インスティテュート (SLI) が設置されている。上尾・大宮キャンパス、駒込キャンパス、栄光ゼミナール大宮校などに次のようなクラスを開講している。これらのクラスは、約10週間を一期として、4、9月、1月に各期を開始する。また、聖学院大学、女子聖学院短期大学、聖学院小学校に講師を派遣している。とくに、聖学院小学校では、カリキュラム、教材の作成も担当している。

これまでに、下記のクラスを開講した。

①英会話クラス

初級クラスから上級のクラスまで。Let's Talk (レベルA)、

More Talk (レベルB)、
Total Talk (レベルC) のクラスで、日常会話から、テーマに基づいて discussion できる英語力を養成する。授業時間中は、二人一組になって、英語で話し、考える訓練をする。

ネイティブ・スピーカーと自由に気楽に会話を楽しむ英語サロン、Just Talk も設けられている。

②TOEFL クラス

アメリカの大学、大学院に留学するために必要な TOEFL で、4 点以上、550 点以上を獲得できるように、reading、grammar、listening、vocabulary の徹底的学習をする。

③英検クラス

英検 2 級、準 1 級の合格をめざして、発音・慣用表現・空所補充・整序作文・長文問題・ヒアリングの出題傾向にそって、学習する。

④Overseas Study クラス

夏期・春期に4週間オグルソープ大学ほかで語学研修をする学生、また、アメリカ各地でホームステイをする学生を対象に、日常生活で困らない実践的英語会話を学ぶ。

⑤フランス語会話クラス

フランス語をペアラーニング・システムで効果的に学ぶクラス。会話を中心にフランス語の発音に習熟するよう指導する。

⑥Institutional TOEFL, Secondary Level Proficiency Test (SLEP) 試験

英語の実力試験を年 4 回行う。留学希望者は、必ずこの試験で英語力を把握しておくこと。オグルソープ大学(学期、春期語学)、リンチバーグ大学、ペサニー大学への留学にはこの試験で所定の点数を取得することが求められる。

⑦推薦入学者英語集中講座

聖学院大学の推薦入学者のために、ネイティブ・スピーカーから集中で英会話の教授を受ける講座である。

⑧ドイツ語会話クラス

この他、公民館、PTAなどの活動の一環として計画された「英会話」教室に、教師を派遣している。

IV 聖学院大学出版会

(1)目的と理念

聖学院大学は、教育・研究活動を学外に拡げ、その学術・文化的使命を果たすために、1991年4月に「聖学院大学出版会」を設立した。1992年4月には、東京大学出版会、法政大学出版局、など24大学出版会（1999年3月現在）によって構成される「大学出版部協会」に加盟した。

聖学院大学出版会は次のような出版活動をする。

①聖学院は、プロテスタント・キリスト教の精神と文化の伝統を継承する学校であり、また、日本のキリスト教諸大学に、現在、大学出版会を設置している学校がないことに鑑み、キリスト教文化、キリスト教教育の発展に寄与することを考慮する。

②出版会は、「聖学院大学総合研究所」に位置し、学校法人聖学院の諸学校と有機的関係を持った出版活動をする。

③「聖学院大学の理念」に基づき、学際的かつ国際的、創造的かつ総合的学問の進展をはかる出版活動をする。

また、次のような出版物を刊行する。

①学校のカリキュラムに即した講義テキスト。特にキリスト教学校の「聖書科」教科書。

②研究の成果としての学術書。

③University Extension の趣旨に基づく、学術的啓蒙書。

④学生・生徒の人生の伴侶となりうるような教養書。

⑤キリスト教思想・評論などの専門書。

(2)出版物（発行日順）

1992. 4. 10 鵜沼裕子『史料による日本キリスト教史』

1992. 4. 10 W・パネンベルク『キリスト教社会倫理』

1993. 4. 1 倉松 功『キリスト教信仰概説』

1993. 4. 10 宗教センター編『神を仰ぎ、人に仕う』

1993. 11. 30 高橋義文『ラインホルド・ニーバーの歴史神学』

1994. 3. 11 ラインホルド・ニーバー『光の子と闇の子』

1994. 3. 31 酒井文夫『国家と法の比較研究』

1994. 11. 10 W・パネンベルク『歴史としての啓示』
1994. 11. 25 金井信一郎『社会改革への道50年』
1994. 11. 30 隅谷三喜男『アジアの問いかけと日本』
1995. 1. 30 濱田辰雄『神道学者・折口信夫とキリスト教』
1995. 4. 5 保谷六郎『日本社会政策の源流』
1995. 11. 1 大木英夫『主の祈り』
1995. 11. 30 高橋昌郎編著『日本プロテスタント史の諸相』
1996. 5. 20 澁谷 浩『オリヴァー・クロムウェル』
1996. 11. 20 工藤英一『単税太郎C・E・ガルスト——明治期社会運動の先駆者』
1997. 4. 28 学校伝道研究会編『キリスト教学校の再建』
1997. 9. 1 ジェームズ・L・アダムズ『自由と結社の思想』
1997. 12. 10 山田園子『イギリス革命とアルミニウス主義』
1998. 2. 10 永岡薫編著『イギリス・デモクラシーの擁護者A・D・リンゼイ——その人と思想』
1998. 3. 10 三田村佳子『川口鑄物の技術と伝承』
1998. 3. 20 組織神学研究会編『ユルゲン・モルトマン研究』
1998. 8. 27 倉松 功・近藤勝彦著『キリスト教大学の新しい挑戦』
1998. 8. 31 倉松 功『ルター神学の再検討』
1998. 11. 1 大木英夫『「字魂和才」の説——21世紀の教育理念』
1999. 3. 10 E・ブルンナー『正義——社会秩序の基本原理』
1999. 3. 30 組織神学研究所編『パウル・ティリッヒ研究』

V 自治体リーダー養成講座

埼玉県にあり、しかも県内では唯一の政治経済学部を持ち、地方自治論の講座を開設している大学として、埼玉県知事の要請もあり、県・市町村の職員の研修プログラムを提供している。地方分権が叫ばれ、中央集権的な行政から地方自治への転換が課題となっている。そのためには、地方政府の行政を担当する職員の役割がこれまでの業務遂行型から、政策企画型に脱皮していく必要がある。この講座では、五日間の日程で、地方自治の将来像を描きながら、実際の業

務に関わる福祉、環境、産業などの領域での政策立案を研修する。

<1994年 第1回「政策企画のあり方を考える」>

●第1日目 (11/7 月)

- 午前 10:00 受付開始
10:30~12:00 開講式、オリエンテーション
午後 1:00~2:50 講演 I 安倍北夫 (本学学長)「地域活性化とリーダーの条件」
3:10~5:00 講義 I 南 靖武 (東京都首都調査担当部長)「自治体と地方分権」
5:15~6:30 交流会 (研修生間及び教員との交流を目的。6号館食堂にて。)

●第2日目 (11/8 水)

- 午前 9:00~10:25 講義II 鈴木宮夫 (埼玉県地域振興局長)「彩の国づくりの展開」
10:35~12:00 講義III 佐々木信夫 (本学客員教授)「新しい自治体像と政策」
午後 1:00~2:50 講義IV 後藤兼一 (本学助教授)「情報管理の技術と経営」
3:10~5:00 講義V 保谷六郎 (本学教授)「ゆとり社会と労働の変化」

●第3日目 (11/9 水)

- 午前 9:00~10:25 講義VI 佐々木信夫 (本学客員教授)「ディベートと実践法」
10:35~12:00 討議 I 5グループに分かれたディベート予備討議
午後 1:00~3:45 討議II ディベート本討議 指導: 桑原英明 (常磐大学専任講師・本学講師)
4:00~5:00 講評 桑原英明「ディベート全体講評と政策論」

●第4日目 (11/10 木)

- 午前 9:00~12:00 専門別講義 (5コース別)
女性政策コース 秋吉祐子 (本学教授)
「女性の社会参加と地域」
国際政策コース 松井弘明 (大東文化大学
教授・本学講師)「地域、地球と国際化」
環境政策コース 村上公久 (本学専任講
師)「地球、地域と環境問題」
福祉政策コース 城戸喜子 (本学教授)
「高齢化社会と地域福祉」
産業経済コース 大森達也 (本学助教授)
「地域の産業と経済」
- 午後 1:00~5:00 専門別講義 (5コース別)
上記、指導教員のもとにゼミ形式の専門別
討議を行う。

●第5日目 (11/11 金)

- 午前 9:00~10:25 講演II 新藤亨弘 (大宮市長)「私の考える
都市づくりと実践」
10:35~12:00 講演III 恒松制治 (前島根県知事)「これ
からの地方自治と展望」
- 午後 1:00~2:50 講演IV 大木英夫 (本法人理事長・本研究
所所長)「21世紀社会への展望」
3:10~4:30 閉講式 (修了証書授与)

<1995年 第2回「豊かな高齢社会を考える」>

第1日目 (10/16 月) ——基調講義

- 午前 9:30 受付開始
10:00~10:30 開講式、オリエンテーション
10:45~12:15 講義I これからの自治体行政と展望 (恒
松制治・前島根県知事)
- 午後 13:15~14:45 講義II 新しい自治体とプロの役割 (佐々
木信夫・本学客員教授)

15：00～16：30 講義Ⅲ 豊かな高齢社会を考える——西欧
と日本（飯坂良明・本学教授）

第2日目（10/17 火）——専門講義

午前 9：00～10：30 講義Ⅳ 都市型高齢社会の不安・希望・心
理（安倍北夫・本学学長）

10：45～12：15 講義Ⅴ スウェーデン社会の老後（岡澤憲
芙・早稲田大学教授）

午後 13：15～14：45 講義Ⅵ いきがいと男女共生社会（太田芳
枝・労働省婦人局長）

15：00～16：30 講義Ⅶ 高齢社会での地域・福祉・健康
（前田信雄・本学教授）

第3日目（10/18 水）——専門演習Ⅰ（ディベート）

午前 9：00～10：30 基礎講義Ⅰ 政策ディベートの考え方・進
め方（佐々木信夫）

10：45～12：15 予備討議Ⅰ ディベートの役割別予備討議
（指導・佐々木信夫）

午後 13：15～14：45 本討議／ディベートの本番・講評（指導・
佐々木信夫）

15：00～16：30 本討議／ディベートの本番・講評（指導・
佐々木信夫）

第4日目（10/19 木）——専門演習Ⅱ（専門コース）

午前 9：00～10：30 基礎講義Ⅱ 各専門コース別の専門基礎講
義（各講師）

10：45～12：15 基礎講義Ⅱ（仮題）

「地方分権を考える」(大山礼子・本学助教授)
「福祉・健康を考える」(前田信雄・本学教授)
「社会保障を考える」(城戸喜子・本学講師)
「産業のあり方を考える」(大森達也・本学助教授)
「こどもを考える」(本田和子・本学教授)
「環境を考える」(村上公久・本学専任講師)
「埼玉県を考える」(利根川啓一・埼玉県企画調整課長)
「民間から考える」(嶋崎洋子・島崎社長・前県知事懇話会委員)

午後 13:15~14:45 専門演習 各専門コース別のゼミ活動
15:00~16:30 専門演習 各専門コース別のゼミ活動
17:00~18:30 懇親会(各研修生相互間及び講師との交流)

第5日目(10/20 金)——総括講義

午前 9:00~10:30 講義Ⅷ これからの地球環境と福祉(村上公久・本学専任講師)
10:45~12:15 講義Ⅸ これからの埼玉を考える(井原勇・与野市長)
午後 13:15~14:45 講義Ⅹ 家族の変化と社会の変化とその未来(大木英夫・聖学院理事長)
15:00~16:30 閉講式

〈1996年 第3回「21世紀の埼玉のまちづくりを考える」〉

第1日(9/17・火)——基調講義

午前 9:30 受付開始
10:00~10:30 開講式、オリエンテーション
10:45~12:15 講義Ⅰ「21世紀のまちづくりと埼玉県の課題」
恒松 制治(本学客員教授/元島根県知事)
午後 1:15~2:45 講義Ⅱ「福祉のまちづくり——スウェーデンに学ぶ」岡澤 憲芙(早稲田大学教授)

3:00~4:30 講義Ⅲ「地方分権と自治体の政策形成」
佐々木信夫（本学客員教授／中央大学教授）

第2日（9/18・水）——専門演習（ディベート） 全日担当/
佐々木 信夫

午前 9:00~10:30 講義Ⅳ「政策ディベートの意義と方法」
10:45~12:15 予備討議テーマ A「市町村に公的介護保険
を導入する」
テーマ B「首都移転を早期に実現する
（移転先不問）」
午後 1:15~2:45 ディベート本討議／テーマA・Bともそれ
ぞれ三班
3:00~4:30 講評（合同講評）

第3日（9/19・木）～専門講義（AかBの選択）専門演習Ⅰ（5
コース）

午前 9:00~12:15 講義Ⅴ—A「まちづくりとボランティア活動」
山岡 義典（プランニング・コンサルタント）
講義Ⅴ—B「世界のまちづくり—海外の事
例に学ぶ」
井上 繁（日本経済新聞論説委員）
午後 1:15~4:30 専門演習Ⅰ—①「高齢化とまちづくり」
前田 信雄（本学教授）
—②「地方分権とまちづくり」
土居 直美（平成国際大学講師）
—③「学校とまちづくり」
西本 憲弘（本学助教授）
—④「健康スポーツとまちづくり」
鈴木 明（本学助教授）
—⑤「地域産業とまちづくり」
大森 達也（本学助教授）
午後 5:00~6:30 懇親・交流会

第4日(9/25・水)～専門講義(AかBの選択)専門演習II(5コース)

- 午前 9:00～12:15 講義VI—A「地球環境と地域づくり」
村上 公久(本学助教授)
- 講義VI—B「生活者の視点からのまちづくり」 森戸 哲(地域総合研究所所長)
- 午後 1:15～4:30 専門演習II—①「まちづくりと自治体C I
(コミュニティ・アイデンティティ)」
中島 誠二(クォーターバック社長)
- ②「魅力ある都市と設計」
田中 芳樹(ARC設計事務所長)
- ③「都市計画と再開発」
大塚 博(上尾市都市計画課長)
- ④「まちづくりにおける県と市町村」
植木 義展(埼玉県政策企画監)
- ⑤「まちづくりと住民参加」
森戸 哲(地域総合研究所所長)

第5日(9/26・木)～総括講義

- 午前 9:00～10:30 記念講義I「都市生活と不安——阪神大震災に学ぶ」 浦野 正樹(早稲田大学教授)
- 10:45～12:15 記念講義II「都市と人間、そして知の技術」
大木 英夫(聖学院理事長)
- 午後 1:15～3:45 パネル・ディスカッション「21世紀の埼玉のまちづくりを考える」
- 司会 村上 公久(本学助教授)
- パネリスト 城戸 善子(慶応義塾大学教授)
- 土居 直美(平成国際大学講師)
- 井上 繁(日本経済新聞論説委員)
- 大塚 博(上尾市都市計画課長)
- 4:00～4:30 閉講式(修了証授与)
- 飯坂 良明(本学大学院研究科長)

〈1997年 第4回「これからの環境政策を考える」〉

第1日(9/17・水) 基調講義

9:30~ 受付

10:00~10:30 開講式 安倍北夫(聖学院大学学長・大学院長)、
オリエンテーション

10:30~12:30 講義I「これからの環境政策を考える」
寄本勝美(早稲田大学教授・政治経済学部長)

13:30~16:30 講義II「自治・分権・環境を考える」
松下圭一(法政大学教授)

第2日(9/18・木) 専門講義

9:00~10:30 講義III「エコムーゼの計画と実際」
小松史郎(三菱総合研究所首席研究員)

10:45~12:15 講義IV「企業の立場から環境を考える」
北條貞宗(㈱クボタ環境管理部長)

13:15~14:45 講義V「環境と法—ゴミとリサイクル」
森嶋昭夫(上智大学教授)

15:00~16:30 講義VI「環境の保全・創造と自治体の役割・責任」
宇都宮深志(東海大学教授・政治経済学部長)

第3日(9/19・金) 専門演習I

9:00~10:00 講義VII「政策ディベートの意義と実践」
佐々木信夫(本学客員教授・中央大学教授)

10:00~12:30 討議 テーマC『魅力ある都市経営を実現するため、市町村合併を進める』

13:30~16:45 討議 テーマA『市町村は住民系ごみの収集をすべて有料化する』全体講評 佐々木信夫(同上)

17:00~18:30 懇親・交流会

第4日(9/24・水) 専門演習II

9:00~12:15 ゼミ講義A「地球環境問題と地域」
村上公久(本学助教授)
ゼミ講義B「リサイクル法をめぐる国と自治体の

役割」 大山礼子（本学助教授）

ゼミ講義C「快適環境づくりと市町村」

恒松制治（本学客員教授・元島根県知事）

ゼミ講義D「企業・市民・行政の組織化」

木谷正道（東京都新宿西清掃事務所長）

ゼミ講義E「環境問題と地域経済」

大森達也（本学助教授）

- 13：15～16：30 クラスゼミA「地球環境問題と地域」 村上公久
クラスゼミB「リサイクル法をめぐる国と自治体の役割」 大山礼子
クラスゼミC「快適環境づくりと市町村」 恒松制治
クラスゼミD「企業・市民・行政の組織化」 木谷正道
クラスゼミE「環境問題と地域経済」 大森達也

第5日(9/25・木) 総括講義

9：00～10：30 講義VIII「実践—ごみゼロへの挑戦」

島村慎一郎（越谷市長）

10：45～12：15 講義IX「市民社会とデモクラシー」

大木英夫（聖学院理事長・本学大学院教授）

13：15～15：45 パネル・ディスカッション「環境自治体づくりを考える」

司会 / 佐々木信夫（本学客員教授・中央大学教授）

討論者 / 村上公久（本学助教授・上尾市環境審議会会長）

中村泰政（埼玉県公害センター所長）

松田美夜子（リサイクルシステム研究家）

飯坂良明（本学大学院教授）

16：00～16：30 閉講式（修了証書授与）飯坂良明（本学大学院研究科長）

〈1998年 第五回「分権時代の自治体経営を考える」〉

第1日(9/16・水) 基調講義

- 10:00~10:30 開講式 安倍 北夫
 10:30~12:30 講義Ⅰ「分権時代における地方自治」
 森田 朗（東京大学法学部教授）
 13:30~16:30 講義Ⅱ「分権時代における政策形成」
 佐々木 信夫

第2日(9/17・木) 専門講義

- 9:00~12:00 講義Ⅲ「地方分権の海外事情」
 土岐 寛（大東文化大学法学部教授）
 10:30~12:00 講義Ⅳ「市町村の分権・自治・改革」
 川島正英（地域活性化研究所代表）

第3日(9/18・金) 専門演習Ⅰ

- 9:00~10:30 講義Ⅴ「政策ディベートの進め方」 佐々木信夫
 10:30~12:00 テーマA討議「埼玉県内の市町村合併を進め、原則として広域市町村圏を一つの市とする」
 13:30~16:00 テーマB討議「サービス向上のため、市町村の窓口は土・日もAM9:00~PM5:00まで営業する」
 16:00~16:45 全体講
 17:00~18:30 評懇親・交流会 政策ディベートの講評
 佐々木信夫

第4日(9/24・木) 専門演習Ⅱ

- 9:30~12:00 ゼミ別講義A「地方分権と高齢者福祉」前田信雄
 ゼミ別講義B「地方分権と県・市町村」大山礼子
 ゼミ別講義C「地方分権と環境行政」
 遠山 益（本学教授）
 ゼミ別講義D「地方分権と産業活性化」大森達也
 ゼミ別講義E「地方分権と自治体改革」
 幸田昭一（東京都職員研修所次長）
 13:30~16:30 クラスゼミA「地方分権と高齢者福祉」前田信雄
 クラスゼミB「地方分権と県・市町村」大山礼子

クラスゼミC「地方分権と環境行政」 遠山 益
クラスゼミD「地方分権と産業活性化」大森達也
クラスゼミE「地方分権と自治体改革」幸田昭一

第5日(9/25・金) 総括講義

9:30~10:30 講義VI「今日起こっている変化について」

大木英夫

9:30~10:30 講義VII「実践——分権・行革への取り組み」

町田潤一(狹山市長)

パネル・ディスカッション「分権時代の自治経営
を考える」

〈司 会〉 横島庄治(高崎経済大学地域政策学部
教授)

〈討論者〉 飯坂良明

小山富栄(上尾市議会事務局次長)

大山礼子

清水良明(埼玉中央青年会議所顧問)

16:00~16:00 閉講式

飯坂良明